

# 支援だより

茨城県立内原特別支援学校  
支援部

令和7年度 第3号 (3月発行)

## 2月20日(金)第2回特別支援教育コーディネーター研修・情報交換会

本校の体育館を会場に、水戸市内の本校通学区域の幼児施設や小・中学校や高等学校の特別支援教育コーディネーターや特別支援教育担当の先生たちが情報共有を行いました。所属している児童生徒の就学や入学等で、移行支援先との本人のスムーズな移行を目指して実施しています。切れ目ない支援や保幼小連携の視点で、参加者の先生方の熱心な意見交換が行われました。



当日は、会場の一角に教材を展示しました。国語や算数等、本校教員が手作りしたものを中心に、数十点の教材や教科書を展示しました。

## 特別支援教育巡回相談の実施状況

今年度も巡回相談や来校相談をご利用くださりまして、ありがとうございました。

巡回相談 358件

電話相談 423件

来校相談 40件

専門家派遣 23件

合計 844件

次年度も学校や園だけでは解決が難しい特別支援教育に関する課題がある際には、巡回相談をご活用ください。所属園や学校が窓口になっております。また、依頼書【様式1】や依頼文【様式2】、相談結果【様式3】で申し込みや結果報告を公立施設は水戸市総合教育研究所へ提出を私立の施設は直接本校支援部宛てにお申込みください。

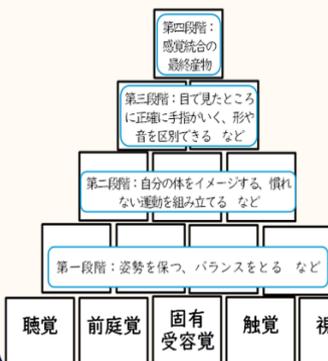
## 次年度より新事業が始まります！

「県立特別支援学校が地域の関係機関等との協議会を設置し、特別支援教育に関する連携体制を整備することにより、センター的機能の強化を図り、地域の特別支援教育の充実に寄与する。」ことを目的とした「県立特別支援学校地域連携体制構築事業」が令和5年度より県内で開始されました。

次年度より、県内全域で実施するにあたり、本校でも水戸市の教育委員会等の関係機関と連携を図り実施していくことになります。地域の障害のある子どもたちの教育的ニーズの把握や学びの充実を目指して。

## 支援部ミニコーナー

専門家派遣事業や医療相談などで、専門家の方からの助言や教えて頂いたことなどから、日頃の指導の参考になるなど感じたことをお伝えします。



感覚統合の点から行動を考えてみる

感覚はピラミッドのように発達する。多少、積み方がゆがんでいても上の段までブロックは積み上げられるが、不安定になりがちになる。そのため、土台となる感覚の発達を促すことが大切。

子どもたちに気になる行動が見られる際には、「粗大運動」「認知機能」「感覚」等の点から、感覚の発達が不十分な部分への支援や指導について考えていくことができる。